

どんぐりのかたち

なまえ

おんどくサイン

どんぐりは、木の
たねです。じめんに
おちて、はるになる
とめを出します。

どんぐりのぼうし
を見てみましょう。
うろこのようなもよ
うのものもあれば、
けがはえたような
ものもあります。

ぼうしのかたち
は、木のしゅるいで
ちがいます。ぼうし
をくらべると、どの
木のどんぐりがわ
かります。

(1) 「ちがいます」のいみにあうものをひとつえらび、
きごうに○をつけましょう。

ア そろっています

イ おなじではありません

ウ ふえています

エ きえています

(2)どんぐりはなんですか。ひとつえらび、きごうに○を
つけましょう。

ア はな

イ むし

ウ いし

エ 木のたね

(3)ぼうしのかたちは、なにでちがいますか。
ぶんしょうからかきぬきましょう。

(4)ぼうしをくらべると、なにがわかりますか。
かきましよう。

かきかたのヒント

「わかる。」でおわらせる。

「木」ということばをつかう。

こたえ (うら)

もん1 イ
もん2 エ
もん3 木のしゅるい
もん4 (れい)どの木のどんぐりかがわかる。

〈○のつけ方〉
もん1～もん3は、こたえとおなじなら○。
もん4は〈どの木のどんぐりか〉がかけていれば○。

1-10-1-1 v7

1年 せつめい文

うんどうかいのあさ

なまえ

おんどくサイン

うんどうかいのあさ、めがさめると、そとがよくはれていました。おねがどきどきします。

おかあさんが、あかいはちまきをむすんでくれました。「きつくない。」ときかれて、わたしはくびをたてにふりました。

かがみを見ると、むすびめがせなかのまん中^{なか}でゆれていました。はやくはしりたくなりました。

(1) 「どきどき」のいみにあうものをひとつえらび、きごうに○をつけましょう。

ア ねむくなること

イ おなかがすくこと

ウ おねがはやくなること

エ さむくなること

(2) うんどうかいのあさのてんきはもうでしたか。ひとつえらび、きごうに○をつけましょう。

ア あめ

イ くもり

ウ よくはれていた

エ ゆき

(3) おかあさんがむすんでくれたものはなんですか。ぶんしょうからかきぬきましょう。

(4) かがみを見たあと、わたしはどうおもいましたか。かきましょう。

かきかたのヒント

「うなった。」でおわらせる。

ぶんしょうのことをそのままつけてよい。

こたえ (うら)

もん1 ウ

もん2 ウ

もん3 あかいはちまき

もん4 (れい) はやくはしりたくなった。

<○のつけ方>

もん1～もん3は、こたえとおなじなら○。
もん4は〈はやくはしりたい〉がかけていれば○。

1-10-1-2 v7

1年 ものがたり

おちばのいろ

なまえ

おんどくサイン

あきになると、木のはのいろがかわります。みどりだったのが、赤やきいろになります。

なつのあいだ、はみどりのいろをもっています。このいろが、木のたべものをつくっています。

さむくなると、みどりのいろがきえていきます。すると、かくれていた赤やきいろが見えてくるのです。

(1) 「かくれて」のいみにあうものをひとつえらび、きごうに○をつけましょう。

ア おおきくなつて

イ とんでいって

ウ こおって

エ 見えないようになって

(2) みどりのいろがきえるのはいつですか。ひとつえらび、きごうに○をつけましょう。

ア あつくなると

イ さむくなると

ウ あめがふると

エ かぜがふくと

(3) みどりのいろは、なにをつくっていますか。ぶんしょうからかきぬきましょう。

(4) さむくなると、はのいろはどうなりますか。かきましよう。

かきかたのヒント

「くくる。」でおわらせる。

「いろ」ということばをつかう。

こたえ (うら)

- もん1 エ
- もん2 イ
- もん3 木の たべもの
- もん4 (れい) みどりがきえて、赤やきいろが見えてくる。

〈○のつけ方〉
もん1～もん3は、こたえとおなじなら○。
もん4は〈赤やきいろが見える〉がかけていれば○。

I-10-I-3 v7

1年 せつめい文

すずむしのこえ

なまえ

おんどくサイン

あきのよるに、り
んりんとなくむしが
います。すずむしで
す。

すずむしは、^{くち}口で
なくのではありません
ん。はねとはねをこ
すりあわせて、おと
を出^だしています。

なくのはおすだけ
です。おすは、めす
をよぶためにない
ています。よるはし
ずかなので、こえが
とおくまでときま
す。

(1) 「とききます」のいみにあうものをひとつえらび、

きごうに○をつけましょう。

ア むこうまでつたわります

イ きえてしまします

ウ もどってきます

エ 小さくなります

(2) すずむしがおとを出すのは、どこですか。ひとつ

えらび、きごうに○をつけましょう。

ア はね

イ 口

ウ あし

エ め

(3) なくのは、おすとめすのどちらですか。

ぶんしょうからかきぬきましょう。

(4) おすは、なんのためにいますか。
かきましよう。

かきかたのヒント

「うため。」でお知らせる。

「めす」ということばをつかう。

こたえ (うら)

- もん1 ア
- もん2 ア
- もん3 おすだけ
- もん4 (れい) めすをよぶため。

〈○のつけ方〉
もん1～もん3は、こたえとおなじなら○。
もん4は〈めすをよぶ〉がかけていれば○。

1-10-1-4 v6
1年 せつめい文

おおきなさつまいも

なまえ

おんどくサイン

はたけで、いもほ
りをしました。つる
をもつと、土つちの中なかか
らいもがで出てきま
す。

わたしのばんで
す。つるをひっぱっ
ても、びくともしま
せん。ともだちがう
しろから手てをかして
くれました。

「せえの。」ふたり
でひっぱると、ぼこ
っと大おおきないもが
出でてきました。かか
えると、ずっしりお
もかったです。

(1) 「びくともしません」のいみにあうものをひとつ
えらび、きごうに○をつけましょう。

ア すぐにぬけました

イ すこしもうごきません

ウ おれてしまいました

エ 小さくなりました

(2) わたしがひっぱれないとき、ともだちはどう
しましたか。ひとつえらび、きごうに○をつけましょう。

ア わらった

イ いってしまった

ウ つるをきった

エ うしろから手をかした

(3) 土の中から出てきたものはなんですか。
ぶんしょうからかきぬきましょう。

(4) いもをかかえると、どうでしたか。かきましょう。

かきかたのヒント

「くかった。」でおわらせる。

ぶんしょうのことはをそのままつかってよい。

こたえ (うら)

もん1 イ
もん2 エ
もん3 大きな いも
もん4 (れい) ず
っしり おもかつ
た。

<○のつけ方>
もん1～もん3は、こた
えと おなじなら ○。
もん4は <おもかった>
が かけて いれば ○。

I-10-I-5 v7

1年 ものがたり

つぎのかたち

なまえ

おんどくサイン

よるのそらに、月つき
がで出ています。月つきの
かたちは、まいばん
すこしずつかわりま
す。

ほそい月つきのときも
あれば、まるい月つきの
ときもあります。ほ
そい月つきは、ゆみのよ
うに見みえます。

月つきは、じぶんでひ
かっているのではあ
りません。たいよう
のひかりがあたった
ところだけが、あか
るく見みえるのです。

(1) 「あたった」のいみにあうものをひとつえらび、
きごうに○をつけましょう。

ア きえてしまった

イ まがった

ウ そこまでとどいた

エ かくれた

(2) ほそい月つきは、なんのように見えますか。ひとつ
えらび、きごうに○をつけましょう。

ア たま

イ いし

ウ ゆみ

エ はな

(3) 月つきのかたちは、どのようにかかりますか。
ぶんしょうからかきぬきましょう。

(4) 月つきがあかるく見えるのはなぜですか。かきましょう。

かきかたのヒント

「くから。」でお知らせる。

「ひかり」ということばをつかう。

こたえ (うら)

もん1 ウ

もん2 ウ

もん3 すこしずつ

もん4 (れい) たい
ようの ひかりが
あたった ところだ
から。

〈○のつけ方〉
もん1～もん3は、こた
えと おなじなら ○。
もん4は〈たいようの
ひかり〉が かけてい
れば ○。

I-10-2-I v6

I年 せつめい文

なわとびのかぞえかた

なまえ

おんどくサイン

休み^{やす}じかんに、ゆ
いちゃんとなわとび
をしました。ひとり
がとんで、ひとりが
かぞえます。

「一^{いち}、二^に、三^{さん}…」

ゆいちゃんのこえが
つづきます。十二^{じゅうに}か
いめで、なわが足^{あし}に
あたりました。

とまったとおもっ
たら、ゆいちゃんは
「十三^{じゅうさん}、十四^{じゅうよん}。」と
かぞえてくれまし
た。わたしは、また
とびはじめました。

(1) 「つづきます」のいみにあうものをひとつえらび、
きごうに○をつけましょう。

ア すぐにとまります

イ 小さくなります

ウ もどってきます

エ とちゅうでやまずにいきます

(2) なわが足にあたったのはなんかいめですか。ひとつ
えらび、きごうに○をつけましょう。

ア 十かいめ

イ 十二かいめ

ウ 十三かいめ

エ 二十かいめ

(3) ひとりがとぶとき、もうひとりは何にをしますか。
ぶんしょうからかきぬきましょう。

--	--	--	--	--	--

(4) とまったあと、わたしはどうしましたか。
かきましょう。

--	--	--	--	--	--	--	--	--

かきかたのヒント

「した。」でおわらせる。

ぶんしょうのことをそのままつかってよい。

こたえ (うら)

もん1 エ
もん2 イ
もん3 かぞえます
もん4 (れい) ま
た とびはじめた。

〈○のつけ方〉
もん1～もん3は、こた
えとおなじなら○。
もん4は〈また とびは
じめた〉がかけてい
れば○。

I-10-2-2 v7

1年 ものがたり

かきのみ

なまえ

おんどくサイン

あきになると、かきのみが木^きになります。はがおちても、みはえだにのこっています。

かきには、あまいかきとしぶいかきがあります。しぶいかきは、口^{くち}の中^{なか}がしびれるようなあじがします。

しぶいかきも、ほしておくにあまくなります。ひもにするして、かぜにあてるのです。

(1) 「しびれる」のいみにあうものをひとつえらび、きごうに○をつけましょう。

ア ぴりぴりしてうごかしにくくなる

イ あまくなる

ウ つめたくなる

エ かたくなる

(2) しぶいかきをあまくするには、どうしますか。

ひとつえらび、きごうに○をつけましょう。

ア ほしておく

イ 水につける

ウ やく

エ こおらせる

(3) しぶいかきは、なににあてますか。ぶんしょうからかきぬきましょう。

(4) はがおちたあと、かきのみはどうなっていますか。かきましよう。

かきかたのヒント

「いる。」でおわらせる。

「えだ」ということばをつかう。

こたえ (うら)

もん1 ア
もん2 ア
もん3 かぜ
もん4 (れい) えだにのこっている。

〈○のつけ方〉
もん1～もん3は、こたえとおなじなら○。
もん4は〈えだにのこる〉がかけていれば○。

I-10-2-3 v6

1年 せつめい文

くつのならべかた

なまえ

おんどくサイン

げんかんでくつをぬいだら、かかとをそろえてならべます。そうすると、げんかんがひろく見え

ます。ならべるときは、つま先をそとにむけます。つぎにはくとき、足を入れるだけですみます。

じぶんのくつだけではありません。ならんだくつを見ると、あとからきたこもまねをしてならべます。

(1) 「そろえて」のいみにあうものをひとつえらび、きこうに○をつけましょう。

ア ばらばらにして

イ はしをおなじところにあわせて

ウ かさねてつんで

エ うらがえして

(2) つま先は、どちらにむけますか。ひとつえらび、きこうに○をつけましょう。

ア うち

イ 上

ウ 下

エ そと

(3) くつをならべるとき、どこをそろえますか。ぶんしょうからかきぬきましょう。

(4) つま先をそとにむけると、つぎにはくときどうなりますか。かきましよう。

かきかたのヒント

「すむ。」でおわらせる。

「足」ということばをつかう。

こたえ (うら)

もん1 イ
もん2 エ
もん3 かかと
もん4 (れい) 足を入れるだけですむ。

〈○のつけ方〉
もん1～もん3は、こたえとおなじなら○。
もん4は〈足を入れるだけ〉がかけていれば○。

I-10-2-4 v6

1年 せつめい文

あさのてあらい

なまえ

おんどくサイン

じゅうがつ
十月になって、水
がつめたくなりまし
た。あさのてあらい
で、みんなが「つめ
たい。」とこえを上
げます。

せんせい
先生が、てあらい
のうたをおしえて
くれました。うたに
あわせて、ゆびのあ
いだまであらいま
す。

うたっているうち
に、つめたさをわす
れていました。おわ
るころには、手がぽ
かぽかしてしまし
た。

(1) 「わすれて」のいみにあうものをひとつえらび、
きごうに○をつけましょう。

ア おもいだして

イ こわがって

ウ きにならなくなって

エ いそいで

(2) 先生がおしえてくれたのはなんですか。ひとつ
えらび、きごうに○をつけましょう。

ア うんどう

イ え

ウ てあらいのうた

エ おはなし

(3) あさのてあらいで、みんなはなんといいましたか。
ぶんしょうからかきぬきましょう。

(4) うたがおわるころ、手はどうなっていましたか。
かきみましょう。

かきかたのヒント

「ゝいた。」でおわらせる。

ぶんしょうのことをそのままつかってよい。

こたえ (うら)

- もん1 ウ
もん2 ウ
もん3 つめたい
もん4 (れい) ぽ
かぽかしていた。

〈○のつけ方〉
もん1～もん3は、こた
えとおなじなら○。
もん4は〈ぽかぽか〉
が かけていれば○。

1-10-2-5 v6

1年 ものがたり

きんもくせいのおい

なまえ

おんどくサイン

あきのゆうがた、
あまいにおいがして
きます。あたりを見
ても、はなはすぐ
は見つかりません。

きんもくせいの花
です。小さいオレン
ジいろの花が、はの
あいだにかたまって
さいています。

ひとつぶは小さい
のに、においはとお
くまでとどきます。
においで、あきにな
ったことがわかりま
す。

(1) 「かたまって」のいみにあうものをひとつえらび、
きごうに○をつけましょう。

ア ばらばらにはなれて
イ 一つだけのこって

ウ 上からおちて
エ いくつもあつまって

(2) きんもくせいの花のいろはなんですか。ひとつ
えらび、きごうに○をつけましょう。

ア しろ

イ オレンジいろ

ウ あお

エ むらさき

(3) においは、どこまでとどきますか。ぶんしょうから
かきぬきましょう。

(4) においがしてきたとき、あたりを見るとどう
でしたか。かきましょう。

かきかたのヒント

「〜かった。」でおわらせる。

ぶんしょうのことをそのままつかってよい。

こたえ (うら)

もん1 エ
もん2 イ
もん3 とおく
もん4 (れい) は
ながすぐには見つ
からなかった。

〈○のつけ方〉
もん1〜もん3は、こた
えとおなじなら○。
もん4は〈すぐには見
つからない〉をかけて
いれば○。

1-10-3-1 v7

1年 せつめい文

けんかした つみき

なまえ

おんどくサイン

そうたくんと、つみきでとうをつくりました。かわりばんこに一つずつみま

あと一つで、せのたかさになるところでした。てがあたって、とうはくずれました。

「そうたくんのせいだ。」といいかけて、やめました。そうたくんが、だまっ

(1) 「かわりばんこに」のいみにあうものをひとつえらび、きごうに○をつけましょう。

ア　じゅんばんをまもって一つずつ

イ　いちどにふたりで

ウ　いそいでなんども

エ　だまってひとりで

(2) とうがくずれたのはなぜですか。ひとつえらび、きごうに○をつけましょう。

ア　てがあたったから

イ　かぜがふいたから

ウ　ゆかがゆれたから

エ　つみきがたりなかったから

(3) くずれたあと、そうたくんはなにをならべていましたか。ぶんしょうからかきぬきましょう。

(4) わたしは、さいごにどうしましたか。かきましょう。

かきかたのヒント

「すわった。」でおわらせる。

「となり」ということばをつかう。

こたえ (うら)

もん1　ア
もん2　ア
もん3　つみき
もん4　(れい)　そ
うたくんの　となり
に　すわった。

〈○のつけ方〉
もん1～もん3は、こた
えと　おなじなら　○。
もん4は〈となり　に　す
わった〉が　かか　て　い
れば　○。

I-10-3-2 v7

1年　ものがたり

くりのいが

なまえ

おんどくサイン

くりのみは、とげだらけのいがにつつまれています。とげはかたくて、するどいです。

いがは、みをまもるふくのようなものです。みがじゅくしていないうちは、たべにくるどうぶつをちかづけません。みがじゅくすと、いがはしぜんにわれます。^{なか}中から、いろいろなみがおちてきます。

(1) 「ちかづけません」のいみにあうものをひとつ

えらび、きごうに○をつけましょう。

ア えさをあげます

イ そばへよせません

ウ いっしょにあそびます

エ おいかけます

(2) いがのやくめはなんですか。ひとつえらび、きごうに○をつけましょう。

ア みをあまくする

イ みを大きくする

ウ みをはこぶ

エ みをまもる

(3) みがじゅくすと、いがはどうなりますか。

ぶんしょうからかきぬきましょう。

(4) いがのとげは、どんなとげですか。かきましょう。

かきかたのヒント

「〜とげ。」でお知らせる。

ぶんしょうのことはをそのままつかってよい。

こたえ (うら)

もん1 イ

もん2 エ

もん3 われます

もん4 (れい) かたくてするどい とげ。

〈○のつけ方〉

もん1～もん3は、こたえとおなじなら○。
もん4は〈かたくてするどい〉がかけてい
れば○。

I-10-3-3 v6

1年 せつめい文

かぜのつよいひ

なまえ

おんどくサイン

かぜのつよいひ
は、ぼうしがとびそ
うになります。木
はも、くるくるとま
わってとびます。

かぜは、目に見え
ません。でも、うご
くものを見ると、ふ
いていることがわ
かります。

はたのゆれかたを
見れば、つよさもわ
かります。すこしゆ
れるときはよわい
かぜ、まっすぐのび
るときはつよいか
ぜです。

(1) 「くるくると」のいみにあうものをひとつえらび、
きごうに○をつけましょう。

ア まっすぐとんで
イ ゆっくりおちて
ウ なんどもまわって
エ ぴたりととまって

(2) かぜがふいていることは、どうすると
わかりますか。ひとつえらび、きごうに○をつけましょう。

ア 目でかぜを見る
イ 手でかぜをもつ
ウ うごくものを見る
エ いろをしらべる

(3) はたがまっすぐのびるときのかぜは、どんな
かぜですか。ぶんしょうからかきぬきましょう。

(4) かぜのつよさは、どうすればわかりますか。
かきましよう。

かきかたのヒント

「わかる。」でおわらせる。

「はた」ということばをつかう。

こたえ (うら)

もん1 ウ
もん2 ウ
もん3 つよい かぜ
もん4 (れい) は
たの ゆれかたを見
ればわかる。

〈○のつけ方〉
もん1～もん3は、こた
えと おなじなら ○。
もん4は〈はたの ゆれ
かた〉が かけて いれ
ば ○。

1-10-3-4 v7

1年 せつめい文

ながいかげ

なまえ

おんどくサイン

ゆうがた、こうえ
んであそんでいる
と、じめんにながい
かががのびました。

「わたしのかげ、
こんなにながい。」り
くくんが、わたしの
かげをふもうとして
きます。わたしは、
ぱつとよけました。

にげるわたしと、
おいかけりくく
ん。かげは、はしっ
てもはなれません。
おかあさんがよぶま
で、かげふみをしま
した。

(1) 「よけました」のいみにあうものをひとつえらび、
きごうに○をつけましょう。

ア そのばにたちどまりました
イ 上にとびのりました

ウ しやがんでまちました

エ ぶつからないようによこへうごきました

(2) りくくんは、なにをふもうとしましたか。ひとつ
えらび、きごうに○をつけましょう。

ア ボール

イ わたしのかげ

ウ はっぱ

エ なわ

(3) かげは、はしってもどうなりますか。ぶんしょうから
かきぬきましょう。

(4) ふたりは、おかあさんがよぶまでなにを
していましたか。かきましょう。

かきかたのヒント

「ゝいた。」でおわらせる。

「かげふみ」ということばをつかう。

こたえ (うら)

もん1 エ
もん2 イ
もん3 はなれませ
ん
もん4 (れい) か
げふみをしてい
た。

〈○のつけ方〉
もん1～もん3は、こた
えと おなじなら ○。
もん4は 〈かげふみ〉
が かけて いれば ○。

I-10-3-5 v6

1年 ものがたり

あきのそら

なまえ

おんどくサイン

あきのそらは、た
かく見えます。なつ
のそらより、あおい
ところがとくにあ
るようにかんじま
す。

なつは、空気の中
に水のつぶがたく
さんあります。だか
ら、そらがしろっぱ
く見えます。

あきになると、水
のつぶがへります。
すみきったそらのた
かいところに、うろ
このようなくもが
ならびます。

(1) 「すみきった」のいみにあうものをひとつえらび、
きごうに○をつけましょう。
ア にごりがなくすきとおった
イ くもっている
ウ くらくなった
エ あつくなった

(2) なつのそらがしろっぱく見えるのはなぜですか。
ひとつえらび、きごうに○をつけましょう。

ア 空気の中に水の水つぶがたくさんあるから
イ くもがないから
ウ たいようが出ていないから
エ そらがひくいから

(3) あきのたかいそらにならぶくもは、なんの
ようですか。ぶんしょうからかきぬきましょう。

(4) あきになると、空気の中の水の水つぶはどう
なりますか。かきましよう。

かきかたのヒント
「へる。」でお知らせる。
「水の水つぶ」ということばをつかう。

こたえ (うら)

- もん1 ア
- もん2 ア
- もん3 うろこ
- もん4 (れい) なつよりへる。

〈○のつけ方〉
もん1～もん3は、こたえとおなじなら○。
もん4は〈へる〉がかけていれは○。

1-10-4-1 v6
1年 せつめい文

おとうとのくつした

なまえ

おんどくサイン

あさ、おとうとが
げんかんでこまって
いました。くつした
が、みぎとひだりで
ちがいます。

一つはあおいし
ま、もう一つは犬の
え。「これでいい。」
そういつて、くつを
はきました。

うちにかえると、
おとうとはくつした
をならべました。お
なじもようを二つず
つそろえました。「あ
したはまちがえな
い。」

(1) 「こまって」のいみにあうものをひとつえらび、
きごうに○をつけましょう。

ア うれしくなって
イ どうすればよいかわからなくなって
ウ いそいではしって
エ ねむくなって

(2) おとうとのくつしたは、どうなっていましたか。
ひとつえらび、きごうに○をつけましょう。

ア あながあいていた
イ ぬれていた
ウ なくなっていた
エ みぎとひだりでちがっていた

(3) おとうとは、おなじもようをいくつずつ
そろえましたか。ぶんしょうからかきぬきましょう。

(4) おとうとは、あしたどうするといいましたか。
かきましよう。

かきかたのヒント

「くつした」でおわらせる。

ぶんしょうのことをそのままつかってよい。

こたえ (うら)

もん1 イ
もん2 エ
もん3 二つずつ
もん4 (れい) ま
ちがえないといっ
た。

〈○のつけ方〉
もん1～もん3は、こた
えと おなじなら ○。
もん4は〈まちがえな
い〉が かけて いれば
○。

1-10-4-2 v6

1年 ものがたり

ばったのあし

なまえ

おんどくサイン

草くさの中なかのばった

は、ぴょんととんで
にげます。あしを見み
てみましょう。

まえとまん中なかのあ
しはみじかく、うし
ろのあしだけがなが
いです。うしろのあ
しは、ふとくてちか
らづよいつくりで
す。

ばったは、うしろ
のあしをばねのよ
うにのばしてとびま
す。じぶんのからだ
よりとおくまでとべ
るのです。

(1) 「のばして」のいみにあうものをひとつえらび、
きごうに○をつけましょう。

ア まげてちぢめて
イ おってしまつて
ウ まっすぐにひろげて
エ かくして

(2) ばったのあしで、いちばんながいのはどれですか。
ひとつえらび、きごうに○をつけましょう。

ア まえのあし
イ まん中のあし
ウ うしろのあし
エ みんなおなじ

(3) ばったは、うしろのあしをなんのよ
うにのばしますか。ぶんしょうからかきぬきましょう。

(4) うしろのあしは、どんなつくりですか。
かきましょう。

かきかたのヒント

「〜つくり。」でおわらせる。

ぶんしょうのことをそのままつかってよい。

こたえ (うら)

もん1 ウ
もん2 ウ
もん3 ばね
もん4 (れい) ふ
とくてちからづよ
いつくり。

〈○のつけ方〉
もん1～もん3は、こた
えとおなじなら○。
もん4は〈ふとくてち
からづよい〉がかけて
いれば○。

I-10-4-3 v6

1年 せつめい文

あさのつゆ

なまえ

おんどくサイン

あきのあさ、草の
はに小さな水のつ
ぶがついています。
これをつゆといいま
す。

よるのあいだに、
あたりがひえます。
空気くうきの中なかの水みずが、ひ
えたはの上うへでつぶ
になるのです。

つゆがつくのは、
かぜのないはれた
あさです。たいよう
が出ると、つゆはす
ぐにきえてしまいま
す。

(1) 「ひえます」のいみにあうものをひとつえらび、
きごうに○をつけましょう。

ア あつくなります
イ かわきます

ウ ひろがります
エ つめたくなります

(2) つゆができるのはいつですか。ひとつえらび、
きごうに○をつけましょう。

ア ひるのあいだ
イ よるのあいだ

ウ ゆうがた
エ あめのふるとき

(3) たいようが出ると、つゆはどうなりますか。
ぶんしょうからかきぬきましょう。

(4) つゆは、どんなあさにつきますか。かきましょう。

かきかたのヒント
「あさ。」でお知らせ。
「はれた」ということばをつかう。

こたえ (うら)

- もん1 エ
- もん2 イ
- もん3 きえてしまいます
- もん4 (れい) かぜのないはれたあさ。

〈○のつけ方〉
もん1～もん3は、こたえとおなじなら○。
もん4は〈かぜのないはれたあさ〉がかけていれば○。

I-10-4-4 v7

1年 せつめい文

なまえ

おんどくサイン

はっぱのおてがみ

こうえんで、^{おお}大きなおちばを見^みつけました。ちやいろで、かさかさしています。

「これ、おてがみになるかな。」うちにもってかえりました。ほそいえだで、はのおもてに^じ字をかきました。

「おばあちゃんあそびにきてね。」うすいきずが、しろい^じ字になりました。あしたのあさ、ゆうびん^いうけに入れておきます。

(1) 「かさかさして」のいみにあうものをひとつ

えらび、きごうに○をつけましょう。

ア かわいていておとがする

イ しめっていてつめたい

ウ やわらかくてあたたかい

エ おもくてかたい

(2) なにで字をかきましたか。ひとつえらび、きごうに○をつけましょう。

ア ほそいえだ

イ えんぴつ

ウ ふで

エ ゆび

(3) おちばにかいた字は、なんいろになりましたか。ぶんしょうからかきぬきましょう。

(4) おちばのおてがみをどうしますか。かきましよう。

かきかたのヒント

「^い入れる。」でおわらせる。

「ゆうびんうけ」ということばをつかう。

こたえ (うら)

もん1 ア

もん2 ア

もん3 しろい

もん4 (れい) あしたのあさ、ゆうびんうけに入れる。

〈○のつけ方〉
もん1～もん3は、こたえとおなじなら○。
もん4は〈ゆうびんうけに入れる〉がかけていれば○。

1-10-4-5 v6

1年 ものがたり